

人口減少に対応した 江原道の地域観光活性化事例

2017.11.15

李英珠【江原研究院研究委員】

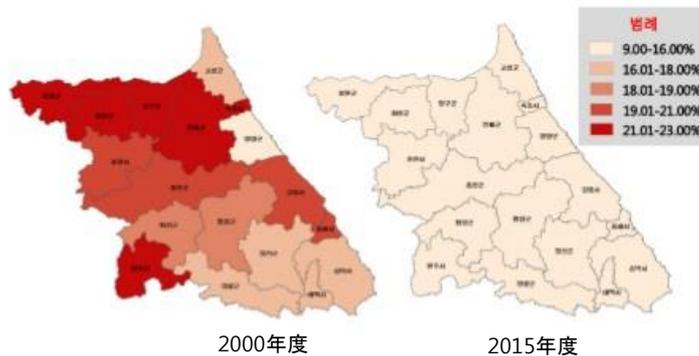
目次

1. 江原道の人口の現況
2. 江原道の観光の現況
3. 江原道の地域観光活性化事例
4. 江原道観光の持続可能な未来

I. 江原道の人口の現況

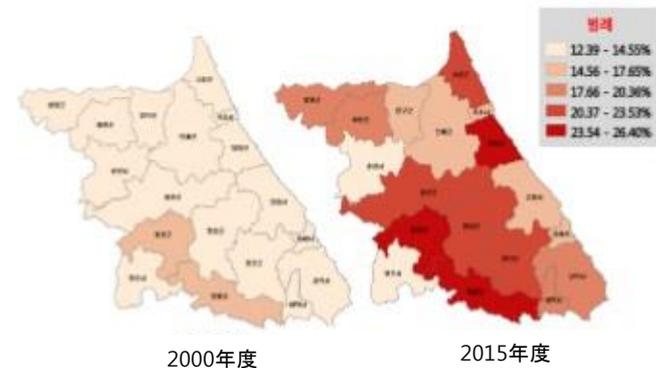
人口の構造

- ・ 人口は、1970年約187万人から1995年147万人まで持続的に減少
→ その後、大きな変化なく約150万人を維持
- ・ 幼少年層の人口は、18市郡で全て減少中
- ・ 2015年江原道の高齢化率は16.94%で、全国(13.22%)より高い水準



<幼少年層人口の変化>

全体

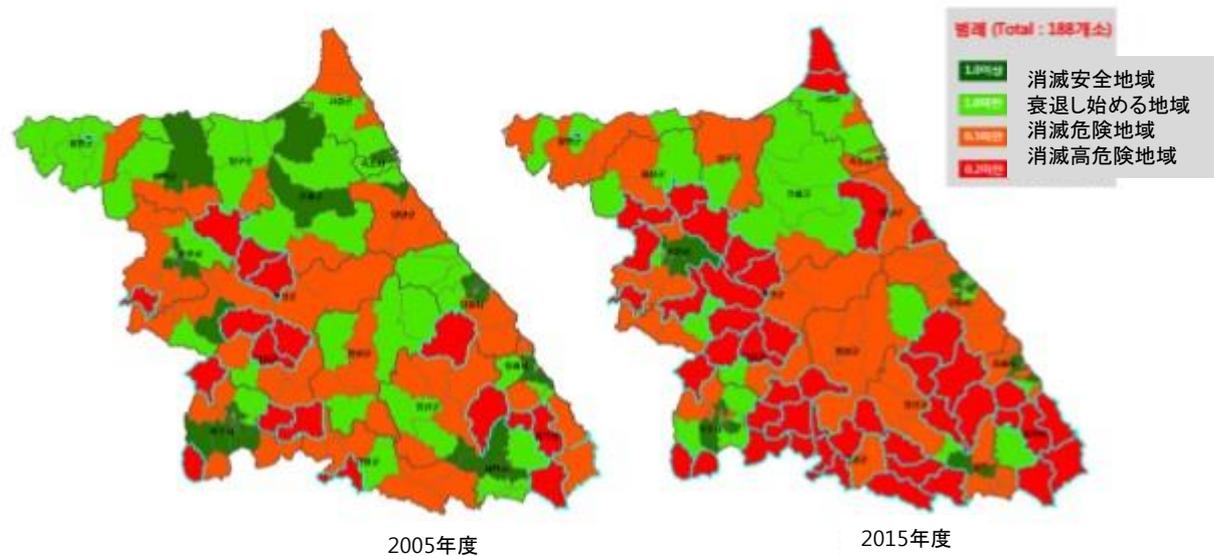


<高齢人口の変化>

I. 江原道の人口の現況

消滅危険

- ・ 消滅高危険地域：高齢人口に対する妊娠可能女性人口の割合が0.2未満は、消滅高危険地域に区分
- ・ 2005年消滅安全地域60箇所 → 2015年27箇所に減少
- ： 面(基礎自治体)地域の86.7%が消滅危険地域と消滅高危険地域に分類

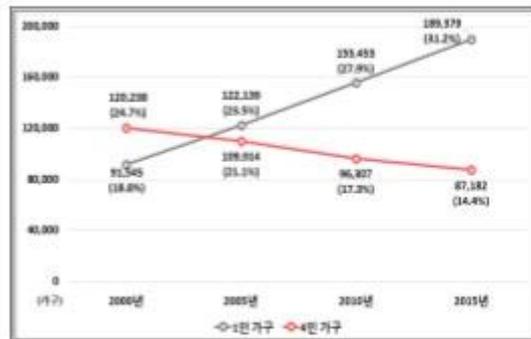


<消滅危険指数の変化>

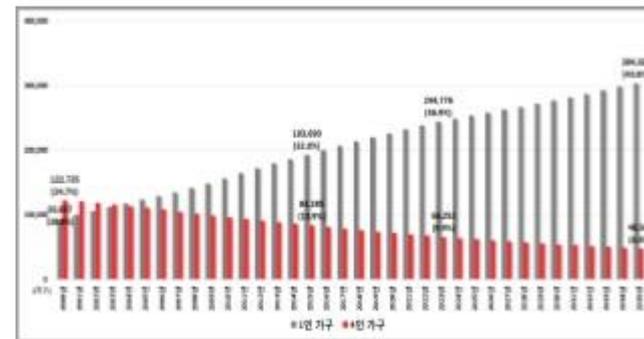
I. 江原道の人口の現況

世帯の形態

- ・ 4人世帯の減少と1人世帯の増加傾向が明確
 - ： 4人世帯は、5年平均-10.1%ずつ減少、全国減少率-6.9%より大幅
- ・ 将来も1人世帯は増加し続ける見通し
 - ： 2023年は、4人世帯が全世帯の10%未満になる見込み



<1人及び4人世帯数の推移>

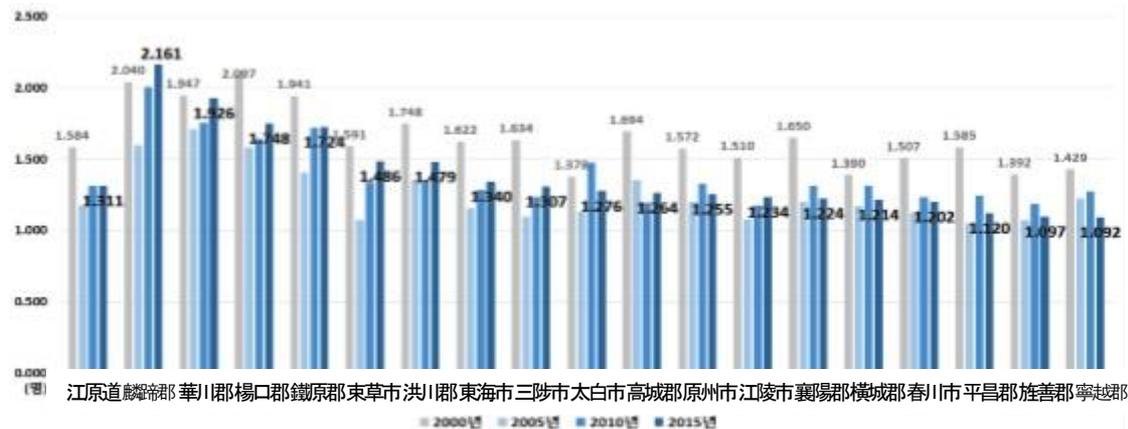


<将来1人及び4人世帯数の予想>

I. 江原道の人口の現況

合計特殊出生率

- ・ 江原道の新生児数は、2000年19,286人から2015年10,929人で年平均-3.53%減少
- ・ 江原道の合計特殊出生率は2015年現在1.311人で全国平均(1.239人)より高い
- ・ 麟蹄，華川，楊口，鐵原など、国境地域の合計特殊出生率が高い
： 若い軍人人口が反映されたと把握

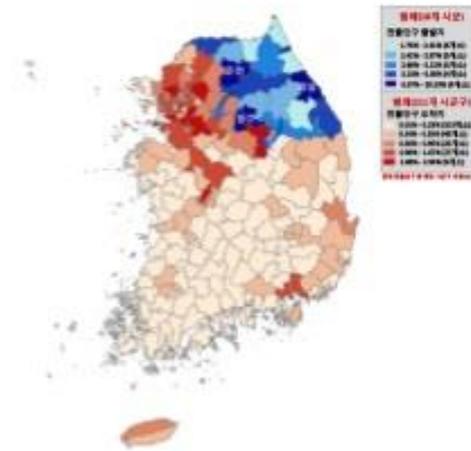


<市郡別合計特殊出生率推移>

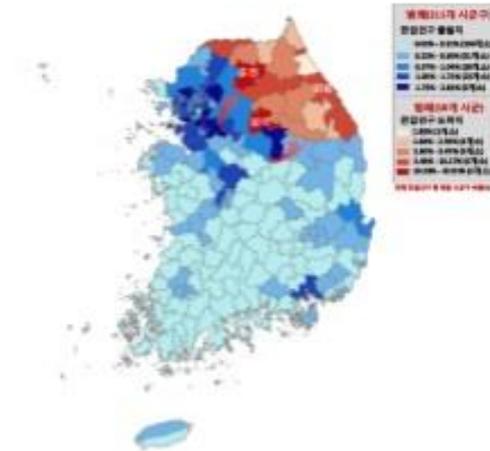
I. 江原道の人口の現況

転入と転出

- ・ 5年間(2011-2015)の転出人口 1,120,175人
→ 63.3%の709,100人が道内移動、36.7%は道外移動
- ・ 同期転入人口 1,135,384人
→ 62.5%の709,100人が道内移動、37.5%は道外移動



<転出人口ネットワーク>

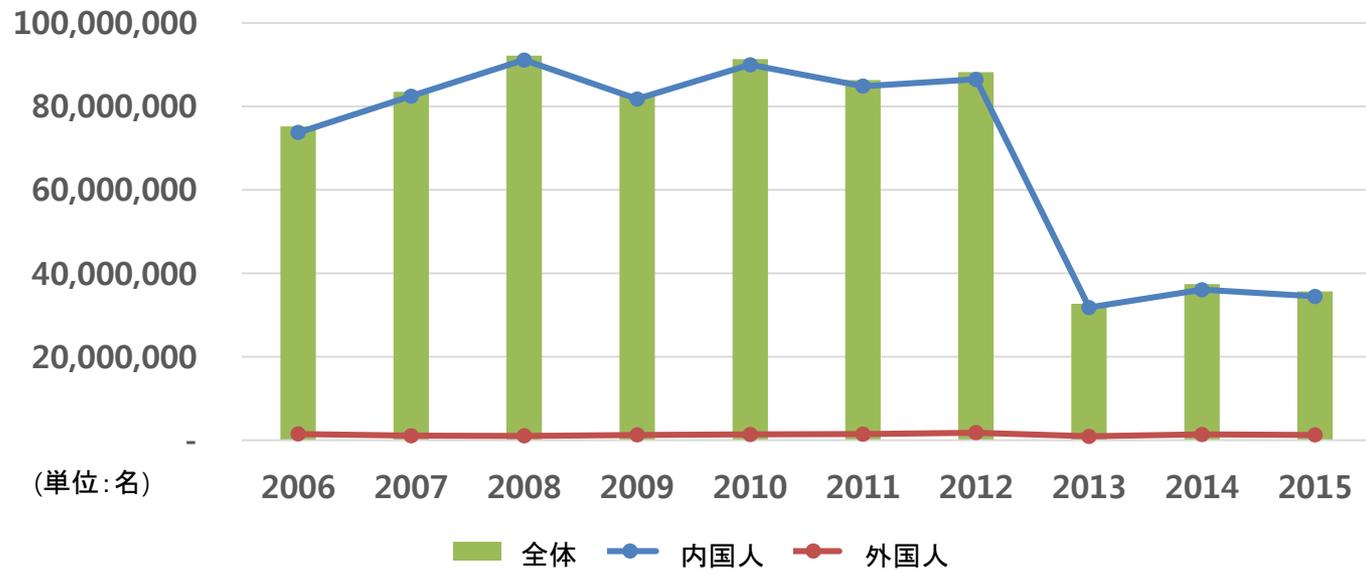


<転入人口ネットワーク>

Ⅱ. 江原道の観光の現況

訪問客は量的に成長

- ・ 江原道訪問客は年々少しずつ増加傾向(内/外国人合計)
： 1,660万人(1999) → 8,824万人(2012) → 3,269万人(2013) → 3,569万人(2015)
※ 2013年より訪問客集計方式変更
- ・ 外国人観光客も10年間多少増加(特に2004-2006年は韓流の影響)
： 99万人(2004) → 146万人(2006) → 90万人(2013) → 125万人(2015)



<年度別江原道観光客数>

資料：観光知識情報システム

Ⅱ. 江原道の観光の現況

宿泊観光目的地としての役割遂行

- ・ 国内宿泊観光地としての役割は維持
 - － コンドが約40%、ペンション、ゲストハウス、代替宿泊施設の活用も増加
- ・ 大型宿泊施設を除くと大半が零細な自営業水準の観光事業者
 - － 施設の老朽化、商人の高齢化、需要者のニーズと合わないサービス水準などの問題

<宿泊旅行訪問先>

区分	1位	2位	3位
2015	京畿(14.2)	江原(13.1)	忠南(10.3)
2014	江原(14.4)	京畿(12.0)	忠南(10.2)
2013	江原(12.7)	慶北(11.0)	京畿(10.8)

資料：国民旅行実態調査



業者数
32.1%
(67社)

全国209社



客室数
44.6%
(19,070個)

全国42,796個

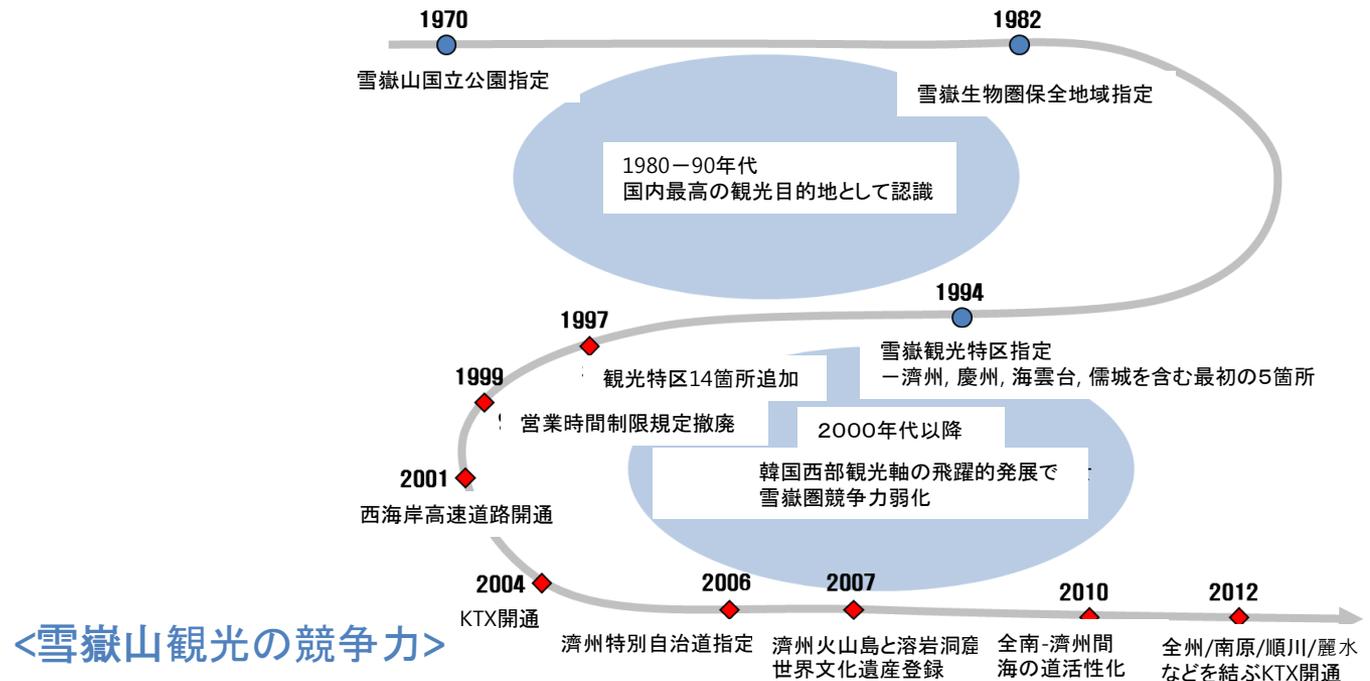
<全国対比江原道のコンドの現況>

資料：観光知識情報システム(2013)

Ⅱ. 江原道の観光の現況

韓国観光1番地から多者間競争へ再編

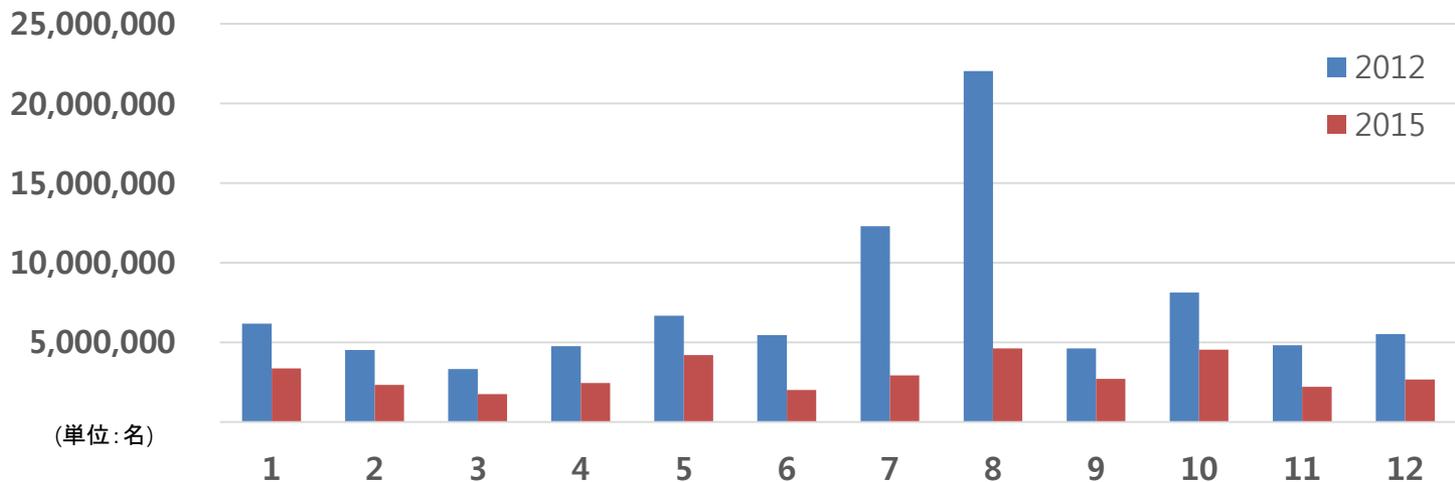
- ・ 1980-90年代は国内最高の観光目的地として認識：束草の雪嶽山と江陵の鏡浦台などが国民観光地として人気
- ・ 2000年代以降、韓国西部観光軸と済州島の飛躍的發展による競争力弱化
- ・ 地方自治体間の観光部門の競争が激化



Ⅱ. 江原道の観光の現況

季節性問題は持続

- ・ 夏場の海辺と祭り中心の観光客訪問：観光客数中心の評価の結果
 - － 四季常設化された観光システムではなく短期間運営による弊害に繋がる
- ・ 海辺観光を除くと四季バランスよく成長
 - － 依然として夏場の海水浴場を中心に避暑客集中



<月別江原道観光客数：2012 vs 2015>

資料：観光知識情報システム

Ⅱ. 江原道の観光の現況

資源活用水準は不十分

- ・ 恵まれた自然環境だが、生態観光への認識は薄い
 - 白頭大幹とDMZの生物種への関心が薄い
 - 国立公園、休養林の資源は主に休養目的で活用：キャンピング文化登場
- ・ 地域文化的アプローチ不足：文化観光目的地としての位置づけは低い
 - 景観と施設中心の単純利用
 - 地域文化コンテンツの発掘とOSMU(One-Source Multi-Use)戦略の不十分



<春川自然休養林&雪嶽山国立公園のキャンプ場> <地域文化コンテンツ:寧越>

Ⅱ. 江原道の観光の現況

観光産業における都市の重要性への理解不足

- ・ 観光産業活性化に直接繋がる都市観光に対する理解不足
 - 観光客集中分布と商圈分布との乖離現象
 - 単独施設中心の観光資源開発の結果
- ・ 持続可能な都市活動そのものが新観光資源になる最新トレンドが未反映
 - 伝統市場、路地の壁画、旧都市の街、フリーマーケット、老舗菓子店等



<東海のノンゴルダム通り>

<東海観光の空間的構造> ○ 観光消費空間 ● 訪問目的地

Ⅱ. 江原道の観光の現況

肯定的側面

- これまでの韓国観光1番地としての姿は維持
- 特に、国内宿泊観光地としてのプレゼンスは確保
- 深刻な夏場集中の季節性問題が徐々に緩和

否定的側面

- 観光部門の地方自治体間競争激化で江原道観光の未来が不透明
- 道内の観光資源開発と活用に関するアプローチが消極的
 - 最近変化している国内外観光をめぐる環境や需要トレンドに対する理解及び関心不足
- 観光と都市及び地域計画を結ぶ連携不足
 - 個別単位事業としての観光が持つ限界が発生

Ⅱ. 江原道の観光の現況



Ⅲ. 江原道の地域観光活性化事例

春川の南怡島：映像観光とその後

- ・ 遊園地 → 韓流観光の先鋒(ドラマ「冬のソナタ」の影響)
→ 独特な野外文化体験空間に変身
- ・ 現在、外国人観光客が最も多く訪れる道内観光目的地の一つ

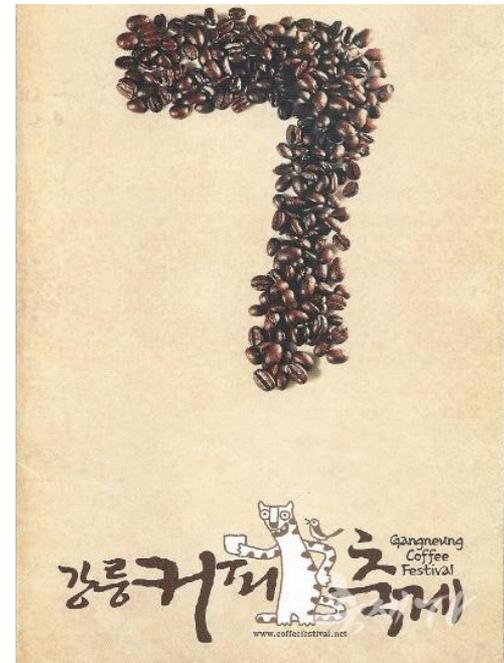


<春川の南怡島>

Ⅲ. 江原道の地域観光活性化事例

江陵コーヒー通り：日常の観光化

- ・ バリスタ中心のコーヒーサービスに特化
- ・ 港と海辺を中心に形成されたコーヒー通り
- ・ 江陵コーヒー祭りによるイメージ変身



<江陵コーヒー通りとコーヒー祭り>

Ⅲ. 江原道の地域観光活性化事例

旌善：アリのランのコンテンツ拡張

- ・ 世界文化遺産としての価値：旌善アリラン唱劇公演，アラリ村
- ・ 独特な生活文化基盤との融合：旌善五日市
- ・ 東江を眺望する新しい方式：ビョンバンチ・スカイウォーク



<唱劇公演、五日市、スカイウォーク>

Ⅲ. 江原道の地域観光活性化事例

廃鉱地域：文化を着る

- ・ 炭鉱地域に造成された芸術文化空間：旌善三炭アートマイン
- ・ 感性ミュージアムの特性、地域全体の観光ネットワーク形成:寧越博物館村



<旌善三炭アートマインと寧越博物館村>

Ⅲ. 江原道の地域観光活性化事例

華川のヤマメ祭り：世界に向けて

- ・ 人口2万7千人に過ぎない町が、毎年冬はグローバル祭り会場に変身
- ・ 2017年祭りには、約11万人の外国人が訪問
- ・ 祭り開催の専門性により他自治体のベンチマーク対象

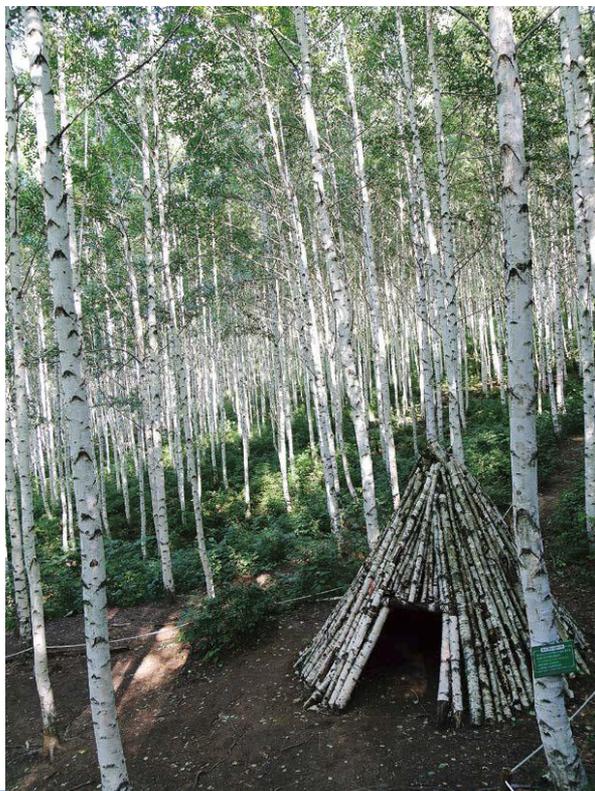


<華川ヤマメ祭り>

Ⅲ. 江原道の地域観光活性化事例

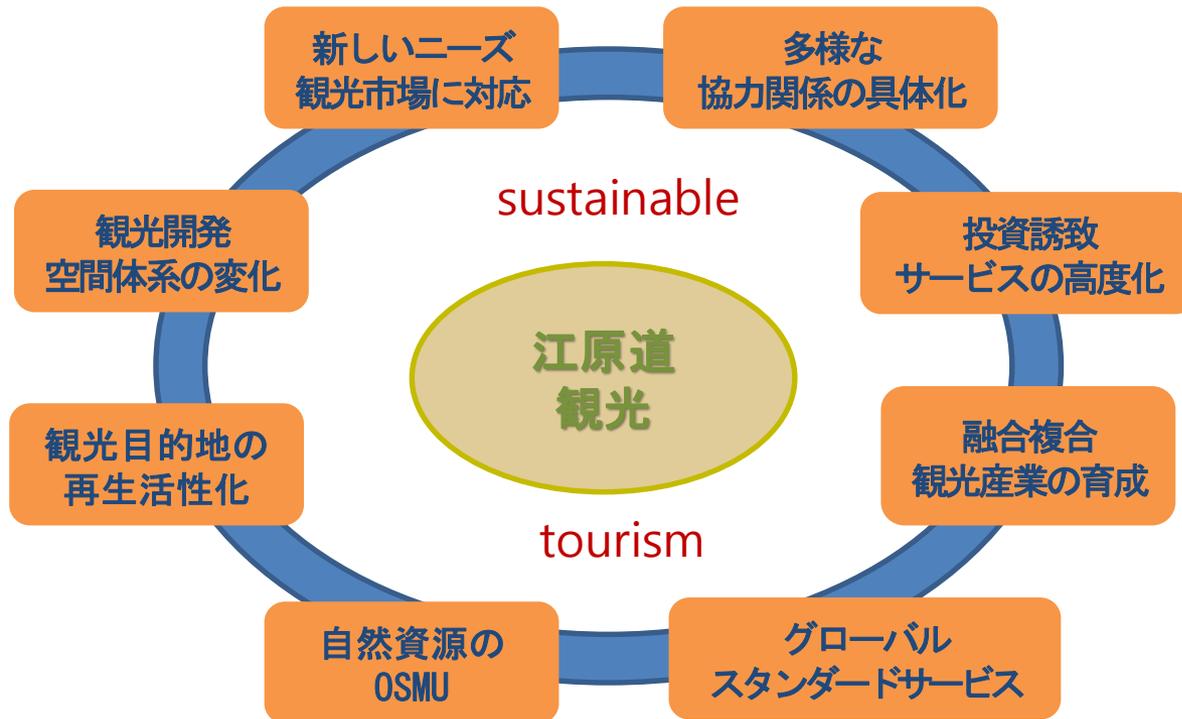
麟蹄の白樺の森：現代人の癒しの空間

- ・ 1974年から1995年まで138haに白樺69万本を造林及び管理
- ・ このうち26haは、幼児のための森体験園として運営
- ・ 2015年から‘韓国人が必ず行くべき韓国観光100選’に登録



<麟蹄の白樺の森と幼児の森体験活動>

Ⅳ. 江原道観光の持続可能な未来



IV. 江原道観光の持続可能な未来

新しいニーズの観光市場に対応

- ・ 中国観光客：団体から個別へ、女性及び青少年(Hot Asian)観光客増加
- ・ 東南アジアのムスリム観光客：ハラル(Halal)観光市場の成長
- ・ 新しい観光需要に対する感覚的対応が必要
 - － 共有経済、心の産業、モモ(More Mobile)世代、シングルなど



<ハラルとコーシャ(Kosher)の認定>

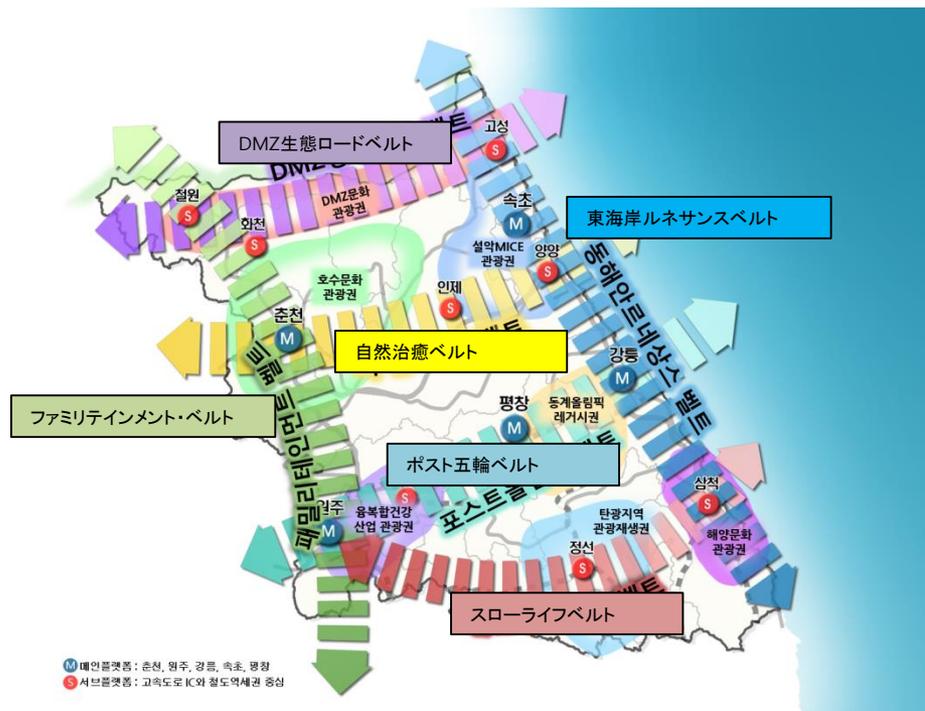


<世界初お一人様専用レストラン>
－ オランダ・アムステルダム

IV. 江原道観光の持続可能な未来

観光開発の空間体系の変化

- ・ アクセス性/機能性中心の空間構造再編：‘目の字’型交通路中心の観光ベルト化
- ・ 問題解決中心型観光小圏の戦略的育成：小圏別共通問題解決
- ・ アクセス性の高い交通結節点は、拠点基盤型観光プラットフォームに特化：サービス特化



<第6次江原圏観光開発計画の空間構想>

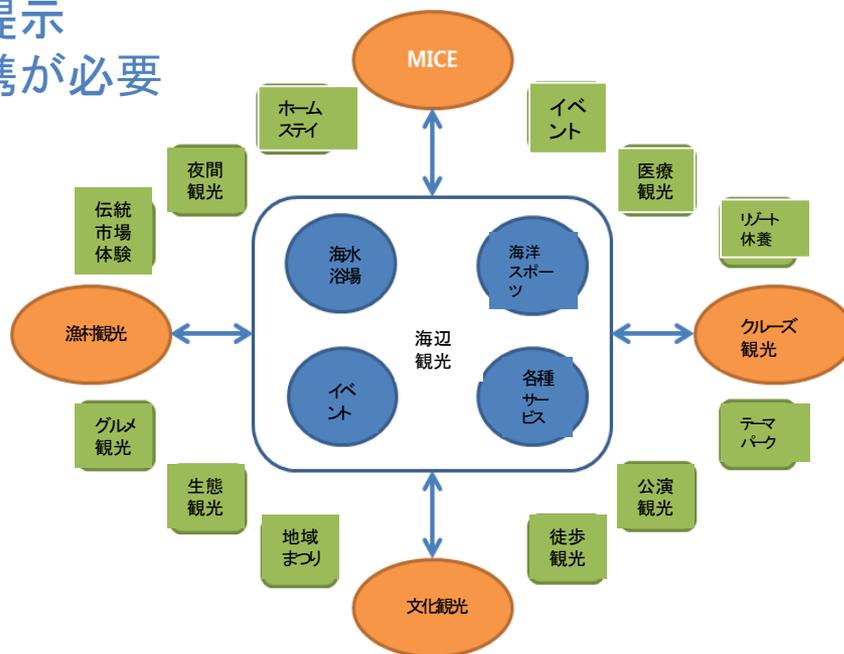
IV. 江原道観光の持続可能な未来

観光目的地の再生活活性化

- ・ 新規観光開発と同程度、既存観光目的地の再生問題も重要なイシュー
- ・ 既存観光目的地の再生とリモデリングを通じて地域観光の効率性向上
- ・ 東海岸、廃鉱地域など、既存観光目的地のライフサイクルを転換させる新しいパラダイムの提示
- ・ 都市再生事業との密接な連携が必要



〈太白市桶里の都市再生住民学校の運営〉



〈東海岸海辺観光のニューパラダイム〉

Ⅳ. 江原道観光の持続可能な未来

自然資源のOSMU(One-Source, Multi-Use)

- ・ 見る楽しさから体験する楽しさへと価値の向上が必要
- ・ 四季を通して楽しめるレジャースポーツ観光スペクトラムを完成
- ・ ICT基盤のレジャースポーツへと発展を図る：ミレニアル世代*とレジャースポーツ市場の消費文化パターンの変化に積極対応



<体験する自然資源>

* ミレニアル世代: 1980年代から2000年代初頭に生まれた世代

IV. 江原道観光の持続可能な未来

グローバルスタンダードサービスの確立

- ・ 観光産業を中心としたサービスの問題：量より質
- ・ 観光産業全体がイベントを通じて得るグローバル経験が一番重要



<オリンピック開催で国内飲食業の経験を蓄積したロンドン>

<ロンドン五輪のFITサービス>

- ◆ 移動の不便を軽減する密着型情報案内
 - ・ 5つのロンドン空港-市内を結ぶ公共交通情報
 - ・ 自家用車でロンドン市内に入る道路及び混雑情報
 - ・ ユーロスターとユーロトンネルの利用情報
 - ・ バス、列車、フェリーの連携網情報
 - ・ 手頃な旅行情報及び手荷物保管施設利用方法など
- ◆ 知れば知るほど得する交通カード (Oyster Card)
 - ・ 個人旅行客の市内外への移動を支援する手段
 - ・ バス、地下鉄、DLR、トラム等を利用できるプリペイドカード
 - ・ 利用した分だけ払うカードと旅行用カードに区分
- ◆ 有用なシティガイド情報など

IV. 江原道観光の持続可能な未来

融合複合サービス産業としての観光産業の育成

- ・ 宿泊、グルメ、買い物など、伝統的観光産業のサービス高度化が必須
- ・ 医療観光、クルーズ観光、MICEなど、融合複合による新しい観光ビジネスの創出も重要
- ・ 同種及び異種の多様なサービス産業との効率的連携と協力がカギ



<世界10大Healthcare目的地>



<東南アジア代表クルーズ、スタークルーズ>

Best Cities
GLOBAL ALLIANCE

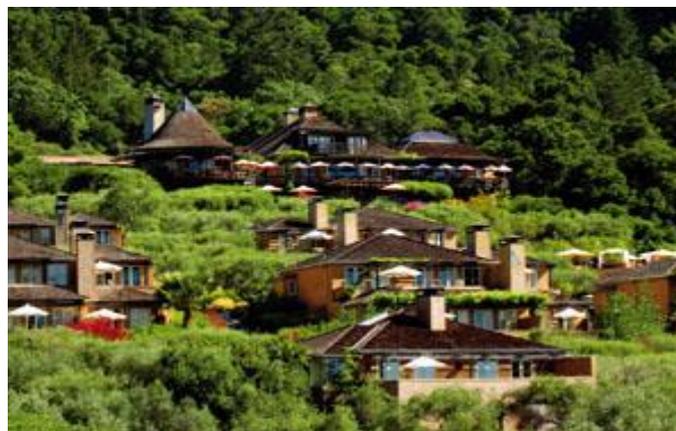


<Best Cities Global Alliance>

IV. 江原道観光の持続可能な未来

投資誘致及びサービス高度化

- ・ 雪嶽山五色ケーブルカーなど大規模開発事業の地域波及力の拡大
- ・ 海外患者誘致中心の医療観光プロジェクトの見える化
- ・ 海外観光客に優しい観光環境づくり及び山岳観光活性化の推進など

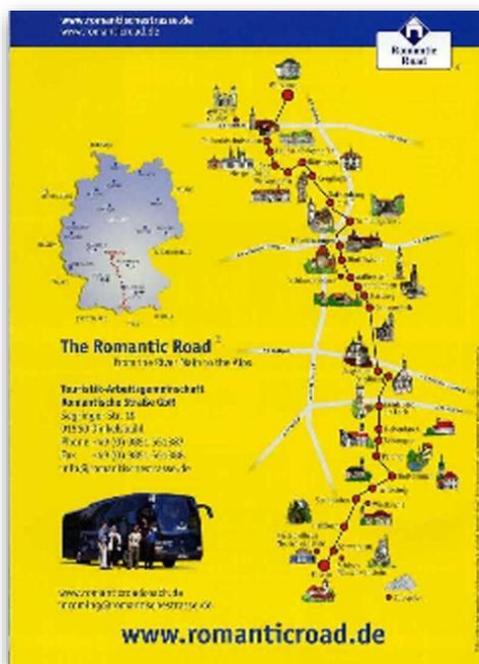


<日本の富良野・美瑛 - ラベンダー畑> <米カリフォルニア州サンフランシスコのナパバレー>

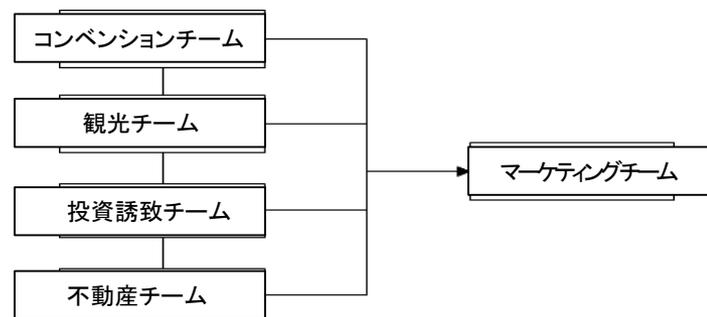
IV. 江原道観光の持続可能な未来

多様な協力関係の具体的推進

- ・ 観光産業高度化は、時宜にかなった融合複合から始まる：‘協力’がカギ
- ・ 雪岳圏観光における既存協力モデルの果敢な革新が必要
 - 東海岸圏観光振興協議会、江原MICE Allianceなど
- ・ 広域的共同目標の設定、会員別権利と責任の強化、実務組織及び人材の投入



<ドイツ・ロマンチック街道協議会>



<ドイツ・ヴェルツブルク市
会議・観光協議体の組織>

ありがとうございました。